

株主の皆さまとのコミュニケーション誌

AGC Review



Vol.42 [株主通信]
2023年3月発行



Focus

ライフサイエンス事業を
CEO直轄のカンパニー組織へ

AGC株式会社
証券コード：5201

Your Dreams, Our Challenge



代表取締役・
社長執行役員 CEO

平井 良典

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

AGCグループは、2021年2月に長期経営戦略「2030年のありたい姿」及びその実現のための中期経営計画 **AGC plus-2023** を策定いたしました。

AGC plus-2023 の2年目となる2022年度は、エレクトロニクス、ライフサイエンスなどの戦略事業に積極投資を実施した一方、コア事業では、北米建築用ガラス事業からの撤退を完了するなど、最適な事業ポートフォリオへの転換を着実に実行しています。

売上高は、各事業における販売価格の上昇、戦略事業、フッ素関連製品などの販売拡大に加え、為替の影響もあり、過去最高を更新しました。

一方、営業利益は、全ての事業において原燃材料が高騰したことに加え、液晶用ガラス基板における大幅な需要減少などの影響を受けたことから、前期比で減益となりました。

また、親会社の所有者に帰属する当期純損益は、ディスプレイ事業、プリント基板材料事業、ロシア事業、欧州自動車用ガラス事業に係る大規模な減損損失が発生したことから、32億円の損失となりました。

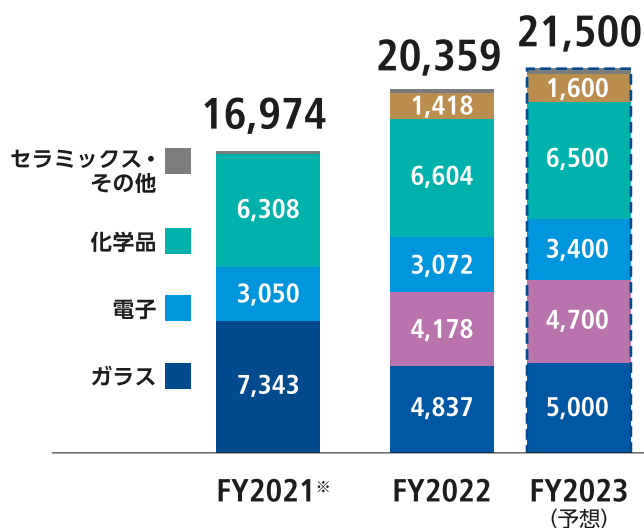
AGC plus-2023 の最終年度となる2023年度は、グローバルアルカリ事業の市況の軟化により化学品セグメントが前期比で減益となる見込みですが、自動車用ガラスをはじめとする他のコア事業や戦略事業の伸長に加え、減損の影響による減価償却費の減少もあり、増収増益を見込んでいます。

業績ハイライト 2022年度 通期

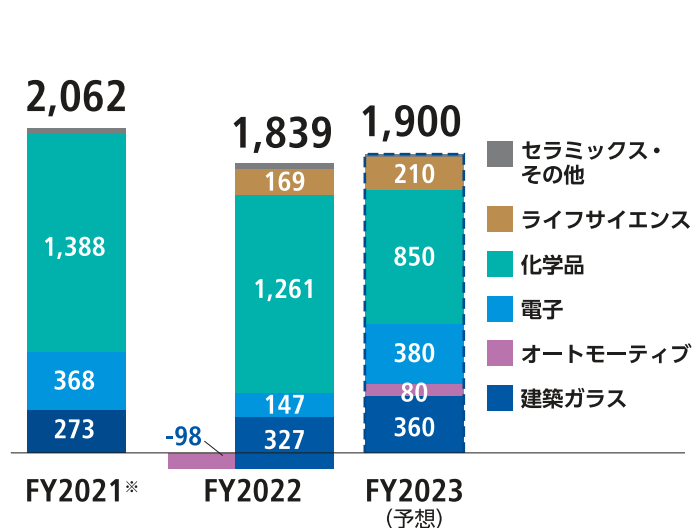
売上高 **20,359億円** (前期比 19.9%増)

営業利益 **1,839億円** (前期比 10.8%減)

セグメント別売上高推移(億円)



セグメント別営業利益推移(億円)



※ 2021年度は旧セグメントで表示

戦略事業の進捗

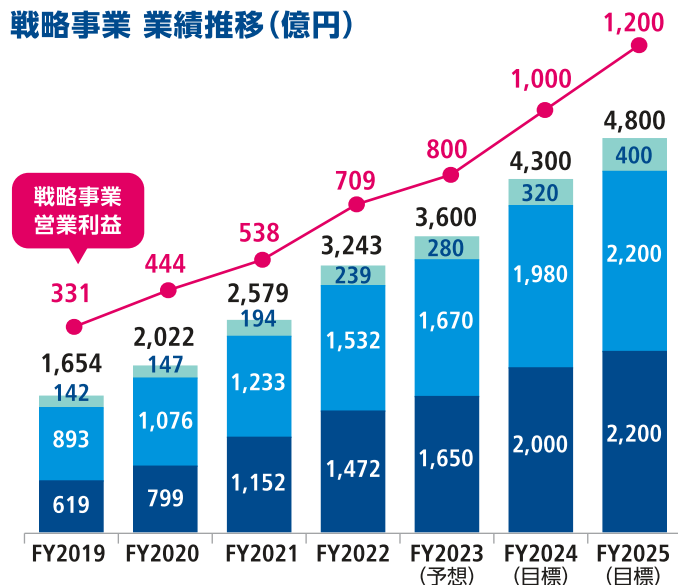
戦略事業は、売上高3,243億円、営業利益709億円となり、前期と比べ大幅な増収増益となりました。エレクトロニクス、ライフサイエンスを中心に順調に事業規模が拡大し業績に貢献しています。

引き続き、戦略事業の伸長に注力し、最適なポートフォリオへの転換を加速します。

事業領域

■ ライフサイエンス ■ エレクトロニクス ■ モビリティ

戦略事業 業績推移(億円)

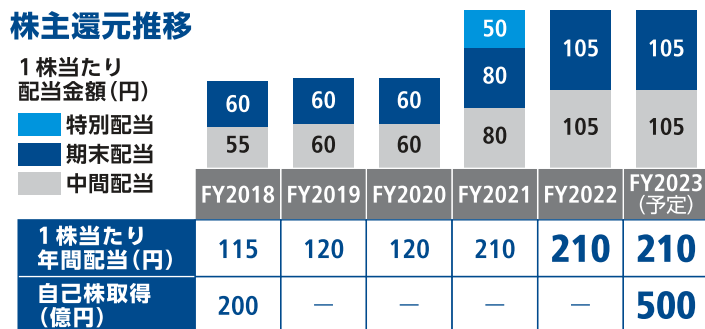


株主還元推移

中期的な成長に鑑み、2022年度の配当は一株当たり105円、年間配当は1株当たり210円といたしました。

2023年度も年間配当は1株当たり210円を予定しております。また、500億円の自己株式の取得を決定しました。

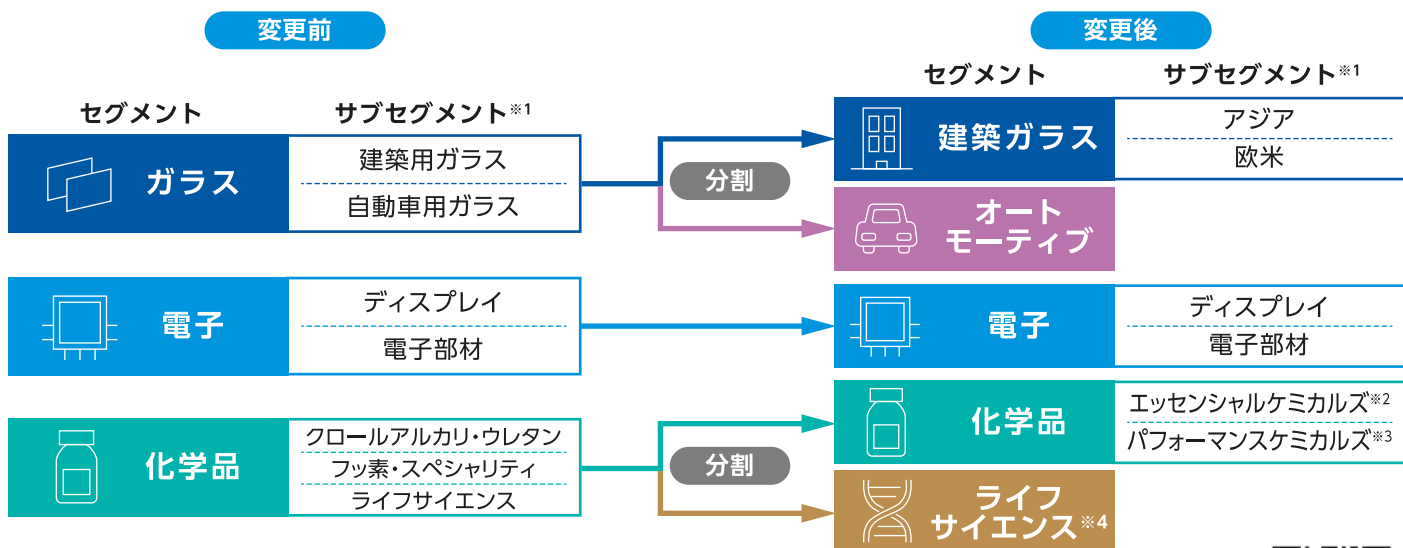
株主還元推移



報告セグメントの変更

AGCグループは、2023年度より、報告セグメントを以下のとおり変更しております。

ガラスセグメントは、建築用ガラス、自動車用ガラス事業の戦略の独自性、意思決定の迅速性を重視した事業運営へのシフトに鑑み、「建築ガラス」と「オートモーティブ」に変更しました。また、化学品セグメントは、ライフサイエンスカンパニーの新設に伴い、「化学品」と「ライフサイエンス」に変更しました。



※1 各セグメント内の製品またはマーケットごとの売上高の内訳区分

※2 クロールアルカリ・ウレタンから名称変更

※3 フッ素・スペシャリティから名称変更

※4 従来ライフサイエンスに含まれていたファインシリカ事業はパフォーマンスケミカルズに移動

詳細はこちら>>



「ライフサイエンスカンパニーの新設～さらなる成長に向けて～」

AGCグループでは、2023年1月1日より、新たにライフサイエンスカンパニーを設立しました。

ライフサイエンス事業は、1973年に当社フッ素化技術の医薬品・農薬への応用可能性を検討する「ライフサイエンスチーム」を発足したのが始まりですが、現在では、低分子合成医薬品だけではなく、世界の医薬品市場で大きく存在感を高めているバイオ医薬へと事業領域を拡大しています。

想定を大きく上回る成長を実現 さらなる事業拡大へ

AGCグループでは、2016年にライフサイエンス事業を戦略事業の1つと定め、化学品カンパニー内にライフサイエンス事業本部を設立。以来、市場成長の拡大を捕捉すべく日本・米国・欧州の3極を拠点に事業規模を拡大してきました。当初、2025年の売上高目標を1,000億円に設定していましたが、4年前倒しで2021年に達成。新たに設定した2025年の売上高目標2,000億円も1年前倒しの2024年に達成することを目指しています。このように、想定を大きく上回るスピードでの成長を実現しています。

今後も、高齢者の増加や医療の高度化を背景として世界の医薬品市場の成長が予想されています。また、世界人口の増加に伴い持続的な食糧供給に向けた農業の生産性向上も求められる中、当社が取り組むCDMO※1事業についても一層の拡大が見込まれています。

このような状況の下、同事業への経営資源の積極的な投入と迅速な意思決定を実現するため、2023年からライフサイエンス事業はCEO直轄の社内カンパニー組織となりました。

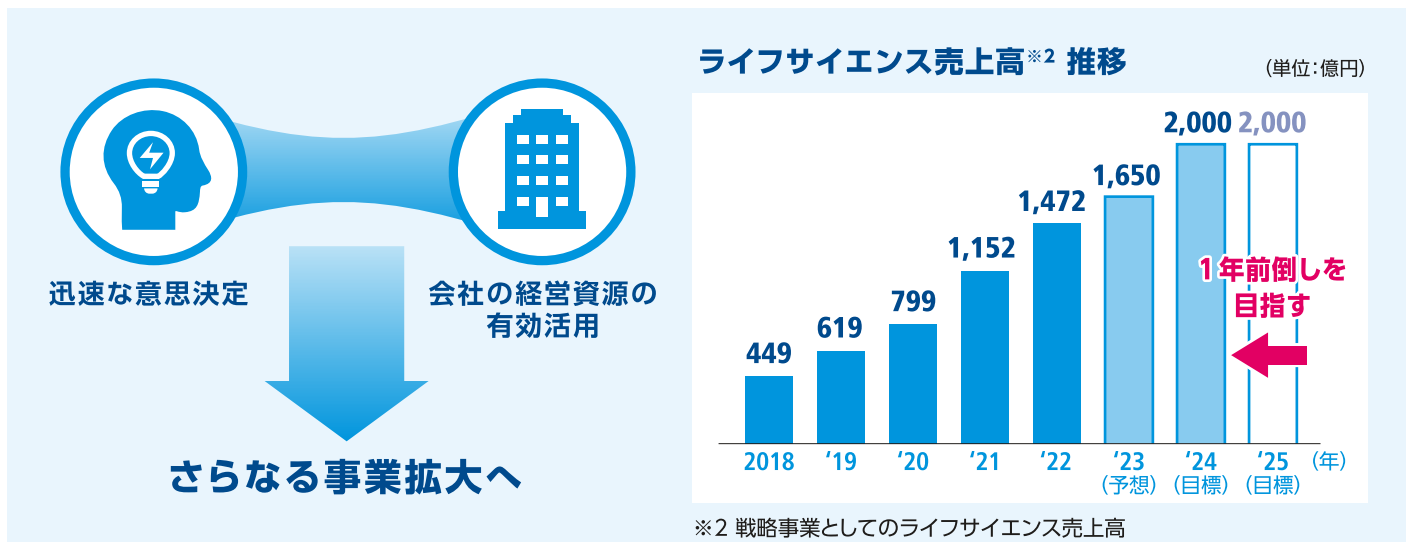
既存事業のさらなる拡大に加え、将来の実用化に向け研究が進む再生医療をはじめとする新技術への参入も検討するなど、さらなる事業拡大を目指してまいります。

※1 CDMO: Contract Development & Manufacturing Organizationの略。

当社のCDMO事業では、医薬品・農薬の製造プロセスの開発から製造までを受託しています。



ライフサイエンスカンパニープレジデント
小室 則之

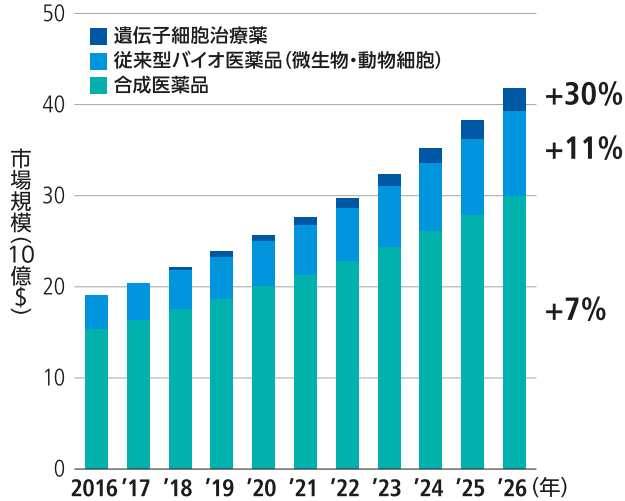


CDMO 市場の拡大

・医療の高度化・医薬品の構造の複雑化等を背景に、製薬会社が新薬研究に資源を集中するため薬の製造等を外部委託する傾向が加速

世界医薬品原薬CDMO市場は2026年まで
年平均成長率+8.5%と高成長が見込まれています

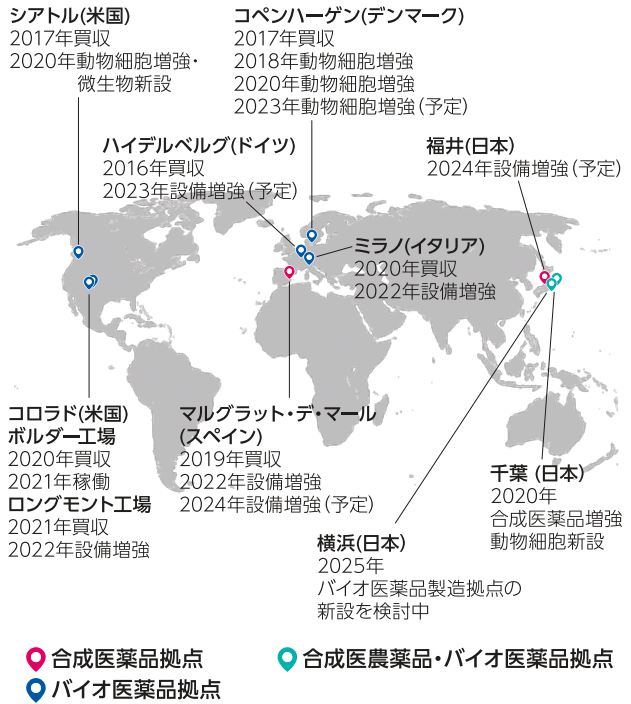
医薬品原薬 CDMO 市場規模推移 (当社推計)



出典: EvaluatePharma®

AGCの積極的な事業規模の拡大

・積極的なM&Aや能力増強投資の実施により、地域・技術分野を拡大



国内で過去最大規模となる能力増強へ、最先端バイオ技術の導入 ～経済産業省が公募を行ったワクチン補助金対象事業に採択～

当社は、経済産業省が公募を行った「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に採択され、国内でのバイオ医薬品CDMO事業の能力拡大に向け、当事業としては国内で過去最大規模となる数百億円の投資を検討しています。投資先となるのは「AGC横浜テクニカルセンター」。2025年稼働開始を目標に、平時にはバイオ医薬品原薬を製造し、パンデミック発生時にワクチン製造に切り替えが可能な「デュアルユース」設備の導入を予定しています。

デュアルユース設備のイメージ



海外依存度の高いバイオ医薬品の国内での開発・製造能力向上に貢献するとともに、最先端技術の日本への導入を実現してまいります。

Topic

AGCグループにおける環境への取り組み

サンゴバン社との共同開発により業界の脱炭素化に貢献

AGCは、フランスの大手板ガラスメーカーであるSaint-Gobain社（サンゴバン社）と、板ガラス製造段階におけるCO₂排出量を大幅に削減する技術を共同で開発することで合意しました。2024年下期に最新鋭のパイロットプラントで実証実験開始を目指しています。

[詳細はこちら](#)》



パイロットプラントとなるAGCの型板ガラス製造プラント(チェコ)

AGC Glass Europe社、Lowカーボンガラスの販売を開始

AGC Glass Europe社で、従来の同社フロート板ガラスと比較*し、ガラス製造工程で直接排出されるGHGだけでなく、原料調達から流通の過程で間接的に排出されるGHGも含め、GHG排出量を40%以上削減した製品の販売を開始しました。本製品は、AGCグループの掲げる2050年カーボンネットゼロ目標に貢献する画期的な製品であり、今後もグループを挙げて取り組みを進めてまいります。

* AGC Glass Europe社が生産するフロート板ガラス、PlanibelのEPD(Environmental Product Declaration)値との比較(INIESデータベース)

[詳細はこちら](#)》



Lowカーボンガラス

インドネシアにおける再生エネルギーの活用を加速

化学品製造・販売子会社であるインドネシアのアサヒマス・ケミカル社は、インドネシア国営電力公社が発行する再生可能エネルギー電力証書を購入する契約を締結しました。化学品カンパニーでは、これまで取り組んできた製造工程のエネルギー効率や生産効率向上による環境負荷低減施策に加え、今般再生可能エネルギー電力の活用を大きく進めることで、CO₂排出削減を加速させてまいります。

[詳細はこちら](#)》



アサヒマス・ケミカル社

CDPから「気候変動」の分野で最高評価「Aリスト」に選定

気候変動などの環境問題に取り組む国際的な非営利団体であるCDP※1から、環境先進的な取り組みと積極的な情報開示が高く評価され、最高評価である「Aリスト」に認定されました。

※1 CDPは、英国の慈善団体が管理する非政府組織(NGO)であり、世界最大の環境データベースを保有しています。CDPのスコアは、ゼロカーボン、持続可能でレジリエント(強靱)な経済に向けた投資や調達の意味決定を推進するために広く利用されています。



詳細はこちら>>



SBTiから温室効果ガス削減目標「WB2°C」の認定を取得

科学的根拠に基づいたGHG排出量削減目標の設定を推進している国際的なイニシアティブであるSBTi※2から、AGCグループの2030年におけるGHG排出量削減目標が、産業革命前からの世界の平均気温上昇幅を2°Cより十分下回る水準に抑えるための科学的根拠に基づいた目標であると承認され、「WB2°C」(well-below 2°C: 2°Cを十分下回る)の認定を取得しました。

※2 Science Based Targets initiative。世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べて2°C未満に抑えるというパリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的根拠に基づいたGHG排出量削減目標を設定することを推進し、その審査と認定を行っています。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

詳細はこちら>>



AGCのWEBサイトをリニューアル ～個人投資家の皆様向けサイトを立ち上げました～

AGCでは、個人投資家の皆様にタイムリーな情報をお届けするため、新たに個人投資家の皆様向けサイトを立ち上げました。

過去に開催した説明会資料なども掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

アクセスはこちらから>>



IRニューズメールのご案内

AGCでは、投資家の皆様に向けてIR関連ニュースをお届けしています。業績に関連する情報に加え、投資・開発などAGCグループの最新情報を配信いたしますので、この機会にぜひご登録ください。

ニューズメールの
ご登録はこちらから>>





オンラインCFO対話会

株主の皆さまとCFOの宮地伸二のオンライン対話会を開催します。当社の中長期の経営戦略、競争優位性などを宮地から説明させていただき、株主の皆さまから直接ご質問いただく機会を設けます。奮ってご応募ください。

日時 2023年6/1(木) 18:00~19:00

募集人数 限定100名様

形式 Zoomを用いたオンライン形式

応募要項

- 対象者: 2022年12月31日現在、当社株式を200株以上ご所有の株主様
- 応募方法: 以下のURLもしくは右の二次元コードより専用サイトにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。
- 応募締切: 2023年4月21日(金)

<https://magicalir.net/survey> アンケートコード:58ebca7



ご応募前の確認事項

- ※ご応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選結果および当日の詳細につきましては、2023年5月中旬までにご登録いただいたメールアドレスにお知らせいたします。
- ※ご応募の際に、必要事項にもれ等の不備があると、ご応募を無効とさせていただきますので、ご注意ください。
- ※ご応募に際していただいた個人情報は、本株主様向けイベントを実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。

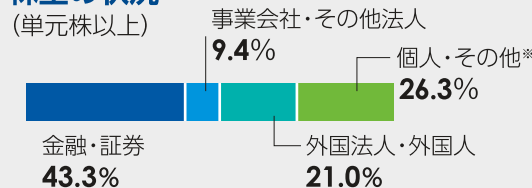
会社概要

商号 AGC株式会社
英文社名 AGC Inc.
創業 1907年9月8日
設立 1950年6月1日
資本金 90,873,373,264円
本社所在地
〒100-8405 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
(新丸の内ビルディング)
電話 (03) 3218-5096
連結対象子会社数
201社(うち海外164社)

株式の状況

発行済株式総数 227,441,381株
株主数 120,086名
(単元株以上株主 102,533名)

株主の状況



※ 自己株式 2.4%を含む

株式関連情報

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会開催月 3月
基準日 定時株主総会 / 12月31日
期末配当 / 12月31日
中間配当 / 6月30日

公告方法 電子公告
[公告掲載アドレス]
<https://www.agc.com/>

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
[連絡先]
電話 0120-232-711 (通話料無料)
[郵便物送付先]
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

配当金のお支払いについて

配当金は、支払開始の日から満5年を経過いたしますと、定款の定めにより、お支払いができなくなりますので、お早めにお受け取りください。
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ

株主様がご所有の当社単元未満株式(1~99株)につきましては、当社に対し買取・買増をご請求することができます。お手続き用紙のご請求その他お手続きの詳細は、下記お問合せ先までご連絡ください。

株式に関するお問合せ先

証券会社等に 口座をお持ちの場合	特別口座の場合
口座を開設されている 証券会社等	三菱UFJ信託銀行株式会社(特別口座管理機関) 電話(0120)232-711(通話料無料)

(2022年12月31日現在)

将来情報に関する注記

本誌の記載のうち、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。